

溶接技術センター

中国で社員教育支援

現地建機メーカーで研修会

日本溶接技術センター（入江広定会長）は、中国における社員教育支援活動を実施した。昨年9月から今年2月までの半年間、計6回にわたり中国の大手建機メーカーである三一集団の社員を対象に、溶接および検査関連の現地教育訓練のための研修会を開催した。今回の現地研修は、同センターにとって本格的な海外企業への現地教育訓練活動の模範場となる。今回の経験をベースに研修プログラムも幅広く整備して教育機能を充実させ、今後の展開に生かしていく考えだ。

人事教育担当役員ほか8人が来日。双方が合意に達し、同センターが溶接および検査技術の教育訓練指導を実施することで包括的協定を結んだ。

これにより、昨年9月から今年2月まで毎月1回のペースで、同センターの専務理事、斎藤参与、久我非常勤講師、下村春夫日本溶接技術センター職員、植藤日本溶接技術専門学校非常勤講師が講師として1週間訪問し、必要な設備なども整え教育を行った。

海外事業へ 本格化 溶接・検査が対象

昨年5月、三一集団の日本窓口である三一日本から同センターに対し溶接および検査関連に関する協力要請があり、これに対し同センターは専務理事、斎藤参与、永徳俊裕日本溶接技術専門学校非常勤講師、久我潤非常勤講師の4人を昨年8月中旬に中国・湖南省長沙市の同社本社に派遣した。7月上旬には同社の

向文渡総務から同社幹部と面談し、教育訓練内容と技術者育成の基本的考え方について協議を行った。7月上旬には同社の

合わせて実施。一方、UT検査員の研

修では、デジタル超音波探傷器による訓練を展開した。各回の研修会終了時には実技試験と修了試験も実施した。最終的な修了試験では、学料、実技ともにJISの試験ガスシールドアーク半自動溶接の中間資格に準じた課題を用意し、受講者全員が優秀な成績で合格を果たすことができた。



溶接技術センターが支援した学科研修